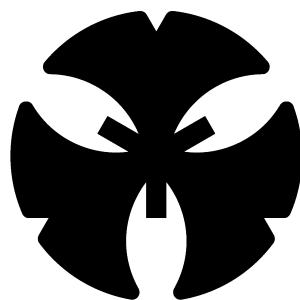


2021 年度

生命環境科学研究科履修要項

(2021 年度入学生に適用)



大阪府立大学大学院生命環境科学研究科

目 次

1.	教育目的及び教育目標・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1-1.	生命環境科学研究科の教育目的	
1-2.	生命環境科学研究科の教育目標	
1-3.	各専攻及び研究分野の教育目的及び教育目標	
2.	大阪府立大学及び大阪府立大学工業高等専門学校の学術研究に係る行動規範・・・・・・・・	2
3.	学年暦・・・・・・・・・・・・・・・・	2
4.	履修について・・・・・・・・・・・・・・・・	3
4-1.	授業科目と単位算定基準	
4-2.	受講申請	
4-3.	履修成績と単位の修得	
4-4.	成績評価についての異議申し立て	
4-5.	学位の授与	
4-6.	大学院共通教育科目の受講	
4-7.	単位の互換制度と留学	
4-8.	専攻課程、分野、領域の変更	
4-9.	教育職員免許状	
4-10.	授業科目の概要	
5.	交通機関の運行停止等に伴う授業の取り扱いについて・・・・・・・・	7
6.	生命環境科学研究科の教員一覧・・・・・・・・	8
7.	研究指導教員の決定と研究指導の方法・・・・・・・・	9
8.	学位論文申請手続等・・・・・・・・	16
8-1.	修士論文	
8-2.	博士論文	
9.	学位授与申請資格・学位審査基準・・・・・・・・	18
別表 1	応用生命科学専攻 授業科目表・・・・・・・・	24
別表 2	緑地環境科学専攻 授業科目表・・・・・・・・	27
別表 3	獣医学専攻 授業科目表・・・・・・・・	31
別表 4	生命環境科学研究科の教員一覧・・・・・・・・	34

大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科

教育推進課 教務グループ（生命環境科学研究科担当）

TEL：072-254-9401

FAX：072-254-8349

※本文中の「教育推進課（生命担当）」は、「教育推進課 教務グループ（生命環境科学研究科担当）」を指す。

1. 教育目的及び教育目標

1-1. 生命環境科学研究科の教育目的

研究科博士前期課程は、生命環境科学の広範な専門知識の教授と研究指導を通して応用生命科学あるいは緑地環境科学の専門領域についての知識と技術、高い倫理観を身に付け、社会の多方面で活躍できる人材を育成する。

博士後期課程は、前期課程での教育を基礎として、より研究活動に重点をおいた教育を行い、専門領域における高度な知識や技術、高い倫理観を持ち、総合的な視野や深い洞察力、独創性や自立的研究能力を身に付けた人材を育成する。

獣医学博士課程は、応用動物科学を基に、高度獣医臨床、人獣共通感染症を含む環境リスク、食の安全性確保、動物バイオテクノロジーなどの現在社会の高度な要請に応えうる、高い倫理観を持つ人材を育成する。
(生命環境科学研究科規程 第2条)

1-2. 生命環境科学研究科の教育目標

生命環境科学研究科では、微生物、植物、動物といった生命体の多様な機能・性状や、生命体により創出される生態系を生命科学の視点から俯瞰的に探究する。さらに、得られた学術情報を持続可能な人類の発展と真に豊かな社会の構築に活用することで、永続的に繁栄できる基盤となる健全な生命環境を構築することを目指し、以下を教育目標とする。

- 1 生物の正常や異常状態での生命現象の解明と、その利用をめざしたバイオサイエンス・バイオテクノロジー、そして生命体を取り巻く環境としての緑地環境の保全創成について、研究者倫理を含め、高度な教育研究を行う。
- 2 人類の知の資産としての科学の発展に寄与するために、生命環境分野における国際水準の研究を推進し、新しい産業や社会経済システムの創出につながる独創的な研究開発を展開することで、地域社会の発展に貢献する。
- 3 博士前期課程では、幅広い関連学問領域についての高度な専門知識と技術を身に付けるための教育を行い、社会の多方面で活躍できる高度専門職業人を養成する。
- 4 博士後期課程と博士課程では、研究活動により重点をおいた高度な専門教育を行い、専門性の高い卓越した学術研究を担う国際的なリーダーとなり得る研究者を養成する。

1-3. 各専攻及び研究分野の教育目的及び教育目標

各専攻及び研究分野の教育目的及び教育目標については、次のページの記載のとおりである。

応用生命科学専攻・・・23 ページ

緑地環境科学専攻・・・26 ページ

獣医学専攻・・・29～30 ページ

なお、生命環境科学研究科応用生命科学専攻、緑地環境科学専攻に『リーディングプログラムコース』を置く。教育目的及び教育目標や、授業科目、教育課程等については、別途、「博士課程教育リーディングプログラム 履修の手引」を参照すること。

2. 大阪府立大学及び大阪府立大学工業高等専門学校の学術研究に係る行動規範

学術研究は、合理的、実証的に真理を探究する人間理性の営みであり、その達成である知識体系は人類が暗愚と迷妄を廃して、自由と進歩を拡大し、世界の平和と地球環境の保全をつくりだすうえで不可欠な共有資産である。過去の知的達成を踏まえて現在の課題に取り組み、未来の知識を創生するという学術研究の行為に終わりはない。ふりかえれば先人による知的達成は、ただ受容されてきたわけではなく、常に批判的な理性による検証を受けて新しくされてきた。だからこそ、すぐれて批判的な営みである学術研究にとって自由の重要性が広く認識されている。

自由な学術研究を、単なる好奇の追究から区別するものは、学術研究の歴史性、社会性についての認識と、学術研究に携わる研究者に対する社会的な信頼と負託に応える責任の自覚である。したがって、研究者は学術研究を進めるうえで、そうした認識と自覚に立ち、偏りのない澄明で厳正な倫理的公正をもって判断し、行動することが求められる。研究者の判断と行動が学術研究の発展に寄与し、人類の知的領野の拡大に貢献するには、研究の成果を公開して社会に対する説明責任を果たし、研究が公正に行われていることを示さなければならない。それなしには学術研究の高い質は保証されない。

学術研究にとって重要な倫理的公正は、ただ研究者個人の責任において実現されるものではない。学術研究のための専門的機関である大学や高等専門学校もまた、研究の公正を実現する責任を有する。とりわけ大阪府立大学及び大阪府立大学工業高等専門学校は、大阪府費である運営費交付金、国等からの外部研究資金等によって支えられていることから、その責任は特段に重い。こうした認識に立って、大阪府立大学及び大阪府立大学工業高等専門学校において学術研究に携わる研究者の判断と行動を律し、研究の公正を実現するうえで遵守すべき行動規範をここに定めるものである。

なお、この行動規範に言う研究者とは、学生を含めて、大阪府立大学及び大阪府立大学工業高等専門学校において研究活動に携わるすべての者を指す。

「大阪府立大学及び大阪府立大学工業高等専門学校の学術研究に係る行動規範」の全文は、大阪府立大学ウェブサイト内で「学術研究に係る行動規範」を用語検索のうえ参照のこと。

3. 学 年 暦

- (1) 学 年 4 月 入 学 ・ ・ ・ 毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。
 9 月 ・ 10 月 入学 ・ ・ ・ 毎年 9 月 26 日に始まり、翌年 9 月 25 日に終わる。
- (2) 学 期 前期は 4 月 1 日から 9 月 25 日まで、後期は 9 月 26 日から翌年 3 月 31 日まで。
- (3) 休業日 土 ・ 日曜日、国民の祝日に関する法律に規定する日。

詳しい授業期間及び試験期間等は、各年度当初に定められる「学年暦」による。

学年暦については、毎年度、学生センター（A3 棟）・りんくうキャンパス事務所及び大学のウェブサイトなどで確認すること。ただし、担当教員が必要と認めたときは、その他の期間に授業や試験が行われることがある。

4. 履修について

大学院生命環境科学研究科には、博士課程（標準修業年限 2 年の博士前期課程及び標準修業年限 3 年の博士後期課程に区分されている）と獣医学博士課程（標準修業年限 4 年）が置かれている。

この履修要項は、大学院生命環境科学研究科の授業科目の履修及び学位論文の申請手続きについて必要な事項を要約したものである。

4-1. 授業科目と単位算定基準

- (1) 本研究科の各専攻（分野）において準備されている科目名、単位数及び必修・選択の区分は、応用生命科学専攻は別表 1、緑地環境科学専攻は別表 2、獣医学専攻は別表 3 のとおりである。
- (2) 単位の算定は、講義については 15 時間をもって 1 単位、演習については 30 時間をもって 1 単位、実験、実習については 45 時間をもって 1 単位とする。

4-2. 受講申請

- (1) 科目を履修するには、担当教員の承認を受けるため、前期から開講される科目は 4 月に、後期から開講される科目は 9 月に受講申請をしなければならない。受講申請期間、方法等については教育推進課発行の「受講申請の手引」を参照すること。
- (2) 申請期日後に受講申請または申請科目の変更は、担当教員の特別の承認がある場合以外は認められない。
- (3) 受講申請をしなかった科目及び受講申請が承認されなかった科目は、履修できない。
- (4) 同一時限に、2 科目以上を重複して受講申請できない。

4-3. 履修成績と単位の修得

- (1) 履修科目の成績は、シラバス等で科目ごとに示されている方法で各授業担当教員によって評価される。
- (2) 履修科目の成績は、下表の基準に基づき評価され、A+, A, B および C が合格となり所定の単位を修得できる。D は不合格となり単位は修得できない。
- (3) 履修成績を学外に発表する場合は A+, A, B, C, D の評語を用いる。
- (4) 履修した科目の成績は、教育推進課から発表される。発表時期等は「受講申請の手引」を参照すること。
- (5) 合格した科目は、再び履修できない。
- (6) 不合格となった科目を履修するには、改めて受講申請をしなければならない。

＜評語，基準，および100点方式による素点＞

評語	基準	100点方式による素点
A+	授業目標を大きく上回って達成できている	100～90
A	授業目標を上回って達成できている	89～80
B	授業目標を達成できている	79～70
C	最低限の授業目標を達成できている	69～60
D	授業目標を達成できていない	59～

4-4. 成績評価についての異議申し立て

当該学期の成績評価について，次のような場合に異議を申し立てることができる。

- (1) 成績の誤記入等，担当教員の誤りであると思われる場合
 - (2) シラバス等により周知している成績評価の方法に照らして，評価結果等について疑義がある場合
- (申し立ての方法)

異議申し立てを行う場合は，定められた期間内（学生ポータルに掲示する。）に授業担当者又は教育推進課（生命担当）・りんくうキャンパス事務所（教務担当）に申し出ること。

4-5. 学位の授与

学位は，博士前期課程，博士後期課程及び獣医学博士課程にそれぞれ在学して，所定の単位を修得し論文の審査及び最終試験に合格した者に授与する。

学位の種類は，大阪府立大学学位規程に基づき，博士前期課程にあつては応用生命科学専攻では修士（応用生命科学），緑地環境科学専攻では修士（緑地環境科学），博士後期課程にあつては応用生命科学専攻では博士（応用生命科学），緑地環境科学専攻では博士（緑地環境科学），獣医学博士課程にあつては博士（獣医学）とする。

リーディングプログラムコースの修了を認定された者には，博士の学位に「システム発想型学際科学リーダー養成学位プログラム」修了を付記した学位記を交付する。

(1) 在学期間

- ① 博士前期課程においては2年以上在学すること。ただし，在学期間は，4年を超えることができない。

なお，在学期間に関しては，優れた業績を上げた者と本研究科会議が特に認めた場合に限り，1年以上在学すれば足りるものとする。

- ② 博士後期課程においては3年以上在学すること。ただし，在学期間は，6年を超えることができない。なお，博士課程の在学期間に関しては，優れた研究業績を上げた者と本研究科会議が特に認めた場合に限り，この課程に3年（修士課程又は博士前期課程に2年以上在学し，当該課程を修了した者にあつては，当該課程における2年の在学期間を含む）以上在学すれば足りるものとする。

*修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者が，博士後期課程に入学した場合の在学期間に関しては，優れた研究業績を上げた者と本研究科会議が特に認めた場合に限り1年以上在学すれば足りるものとする。

- ③ 獣医学博士課程においては4年以上在学すること。ただし，在学期間は8年を超えることができない。

なお、獣医学博士課程の在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者と本研究科会議が特に認めた場合に限り3年以上在学すれば足りるものとする。

④ 休学期間は、在学期間に算入しない。

⑤ 職業を有していたり、育児・介護などの特段の事情で標準修業年限（博士前期課程：2年、博士後期課程：3年、獣医学博士課程：4年）での教育課程の履修が困難な場合は、「長期履修制度」により、標準修業年限を超えて計画的に履修し、教育課程を修了することで学位を取得できる。詳細については、教育推進課（A3棟）に問い合わせること。

(2) 修了に必要な単位

区分 \ 課程	博士前期課程		博士後期課程	獣医学博士課程
	応用生命科学	緑地環境科学		
必修	(※1) 22 単位	(※1) 15 単位	(※1) 13 単位	(※1) 24 単位
選択	(※2) 8 単位以上	(※2) 16 単位以上	—	(※3) 7 単位以上
合計	30 単位以上	31 単位以上	13 単位	31 単位以上

(※1) 大学院共通教育科目のうち、博士前期課程では「研究公正 A」（1 単位）、博士後期課程・獣医学博士課程では「研究公正 B」（1 単位）を含む。

(※2) 大学院共通教育科目のうち、「イノベーション創出型研究者養成」（2 単位）を含めることができる。

(※3) 大学院共通教育科目のうち、「イノベーション創出型研究者養成ⅡA」（1 単位）～「イノベーション創出型研究者養成ⅡH」（1 単位）の 8 科目のうち 2 科目 2 単位まで含めることができる。

大学院共通教育科目については、次項（「4-6. 大学院共通教育科目の受講」）を参照のこと。

(3) 学位論文

上記の (1) 及び (2) の要件に該当する場合に学位論文を提出し、審査を受けることができる。

(4) 申請期限

- ① 修士 3 月及び 9 月に所定の単位を修得する見込みのある者は、それぞれ 1 月 31 日及び 7 月 31 日（その日が土・日・祝日にあたるときは、前日または前週の金曜日）。それ以外については、教育推進課（生命担当）に問い合わせること。
- ② 博士 3 月及び 9 月に修了を希望する者にあつては、それぞれ 1 月 10 日及び 7 月 10 日（その日が土・日・祝日にあたるときは、前日または前週の金曜日）。それ以外については、教育推進課（生命担当）・りんくうキャンパス事務所に問い合わせること。

学位論文の申請については学位論文申請手続等（16～17 ページ）、各専攻の学位授与申請資格・学位審査基準（18～22 ページ）、及び「学位論文審査実施要領」によること。

(5) 最終試験等

- ① 修士の場合 修士論文を提出した者につき、学位論文を中心に最終試験を行う。
ただし、リーディングプログラムコースの学生のうち本研究科が認める者については、

修士論文審査及び最終試験を、大阪府立大学大学院学則第 17 条第 2 項に定める、研究科が行う試験及び審査（「博士論文研究基礎力審査」）に代えることができる。詳細は別に定める。

② 博士の場合 博士論文を提出した者につき、学位論文を中心に最終試験を行う。

学位審査基準については、各専攻の学位授与申請資格・学位審査基準（18～22 ページ）によること。

(6) リーディングプログラムコースの修了要件

リーディングプログラムコースの学生は、上記の（1）～（5）の要件を満たした上で、「博士課程教育リーディングプログラム 履修の手引」の修了要件を満たすこと。

4-6. 大学院共通教育科目の受講

本学の高等教育推進機構が開設する下記の科目については、それぞれの課程区分に従って受講することができる。

なお、大学院共通教育科目の受講については、「大学院共通教育科目 授業時間割表 授業科目ガイド」を参照のこと。

課程区分	科目名	開設時期 単位数※1	
		前期	後期
※2 博士前期課程	研 究 公 正 A	①	
	A c a d e m i c W r i t i n g A	2	
	イノベーション創成型研究者養成※5	2	
	戦 略 的 シ ス テ ム 思 考 力 演 習	2	
	国 際 環 境 学 特 論	2	
	環 境 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 特 論		2
	国 際 環 境 活 動 特 別 演 習	2	
	現 代 教 育 特 論 A	2	
	現 代 教 育 特 論 B		2
	教 育 社 会 学 特 論 A	2	
	教 育 社 会 学 特 論 B		2
	教 育 人 間 学 特 論 A	2	
	教 育 人 間 学 特 論 B		2
※3 博士後期課程 ※4 獣医学博士課程	研 究 公 正 B	①	
	A c a d e m i c W r i t i n g B ※6	2	
	イノベーション創成型研究者養成 I	2	
	イノベーション創成型研究者養成 II A	1	
	イノベーション創成型研究者養成 II B	1	
	イノベーション創成型研究者養成 II C	1	
	イノベーション創成型研究者養成 II D	1	
	イノベーション創成型研究者養成 II E	1	
	イノベーション創成型研究者養成 II F	1	
	イノベーション創成型研究者養成 II G	1	
	イノベーション創成型研究者養成 II H	1	
	イノベーション創成型研究者養成 III	2	
	イノベーション創成型研究者養成 IV	2	

- ※1 単位数に○を付しているものは必修科目を表し、修了に必要な必修科目の単位数に含める。
- ※2 博士前期課程の学生は「イノベーション創出型研究者養成」(2単位)のみ修了に必要な選択科目の単位数に含めることができる。なお、その他の科目については修了に必要な選択科目の単位数に算入しない。
- ※3 博士後期課程の学生は、修了に必要な選択科目の単位数には算入しない。
- ※4 獣医学博士課程の学生は、「イノベーション創出型研究者養成ⅡA」(1単位)～「イノベーション創出型研究者養成ⅡH」(1単位)の8科目のうち2科目2単位まで修了に必要な選択科目の単位数に含めることができる。なお、その他の科目については修了に必要な選択科目の単位数に算入しない。
- ※5 希望者多数の場合は抽選を行う場合がある。
- ※6 2021年度不開講。

4-7. 単位の互換制度と留学

- ① 他の大学院(外国の大学院を含む)との協議に基づき、本研究科会議の承認を得て、当該大学院の科目を履修した場合は、10単位まで修了に必要な単位として認められる。
- ② この制度により外国の大学院に留学する場合は、学長の許可を受けなければならない。この場合、留学の期間は、修業年限に算入する。

4-8. 専攻課程、分野、領域の変更

入学のときに各自の専攻課程、分野、領域が決定されるが、入学後の変更は教授会の議を経て、認めることがある。

4-9. 教育職員免許状

修士の学位を得、教育職員免許法に定められた単位を修得している者は、中学校教諭専修免許状「理科」、高等学校教諭専修免許状「理科」を申請できる。希望者は、あらかじめ教育推進課に申し出て指示を受けること。

4-10. 授業科目の概要

各授業科目の概要については本学ウェブサイトのシラバスの項(以下URL)を参照のこと。

<http://www0.osakafu-u.ac.jp/syllabus/>

5. 交通機関の運行停止等に伴う授業の取り扱いについて

(1) 交通機関の運行停止の場合

- ① 各キャンパスにおける授業の取扱いは以下のとおりとする。

- ・中百舌鳥キャンパス

南海高野線が全面的に運行を停止したとき、または JR 阪和線と南海本線が同時に運行を全面的に停止したときは、授業を行わない。

- ・羽曳野キャンパス

近鉄南大阪線が運行を全面的に停止したとき、または近鉄バスの藤井寺駅前～府立医療センター間及び古市駅前～大阪府立大学羽曳野キャンパス・府立医療センター間の両方が運行を全面的に停止したときは、授業を行わない。

- ・りんくうキャンパス

JR 阪和線と南海本線が同時に運行を全面的に停止したときは授業を行わない。

- ② JR 大阪環状線と **Osaka Metro** (旧 大阪市営地下鉄) が同時に運行を全面的に停止したときは、授業を行わない。

ただし、①②の場合とも、午前7時まで運行を開始したときは、平常どおり授業を行い、午前11時まで運行を開始したときは、午後の授業を行う。

なお、午前9時以降における授業の実施については、上記の取扱いを原則としつつ、状況に応じて例外の判断をする場合がある。その際には、本学ポータルにより周知する。

(2) 暴風警報・特別警報が発令された場合

各キャンパスにおける授業の取扱いは以下のとおりとする。

- ・中百舌鳥キャンパス

大阪府に特別警報、または堺市に暴風警報が発令されているときは、授業を行わない。

- ・羽曳野キャンパス

大阪府に特別警報、または羽曳野市に暴風警報が発令されているときは、授業を行わない。

- ・りんくうキャンパス

大阪府に特別警報、または泉佐野市に暴風警報が発令されているときは、授業を行わない。

また、いずれにおいても午前7時の時点で警報が発令されているときは、当日午前の授業を行わず、午前11時の時点で警報が発令されているときは、当日それ以降の授業を行わない。

ただし、午前9時以降における授業の実施の判断は、上記の取扱いを原則としつつ、状況に応じて例外の判断をする場合がある。その際には、本学ポータルにより周知する。

なお、学外実習などは、前記事項を踏まえ担当教員の指示により授業を行わないことがある。

(注意) 上記にかかわらず、特別警報、暴風警報が発令された時や居住地域に避難勧告が発令された時は、自らの身の安全を最優先に行動すること。

(3) その他非常時の授業の取扱いについて

上記にかかわらず、学長が学生の安全確保等のため必要があると判断した場合は、休講等の措置を行うことがある。

(注意) その他必要がある場合は、各学域・学部・研究科で別に定めて掲示する。

6. 生命環境科学研究科の教員一覧

本研究科の教員一覧は、別表4のとおりである。

7. 研究指導教員の決定と研究指導の方法

生命環境科学研究科 応用生命科学専攻（博士前期課程） 研究指導教員の決定と研究指導の方法

1. 研究指導教員の役割

- 1) 研究指導教員は、学生の希望する研究課題、指導教員の専門分野、指導環境などを考慮し、学生の同意を得た上で研究課題を決定し、研究指導を行う。
- 2) 研究指導教員は、研究指導に加え、学生の教育・研究に必要な授業科目について、シラバスを参考にして個々の学生の指導を行う。
- 3) 研究指導教員は、学生の希望に基づき学生ごとに1名を決定する。

2. 研究指導教員の決定プロセス

- 1) 募集要項の担当教員表等をもとに、事前に希望する教員への研究室訪問や面談を行い、出願時に指導を希望する教員を選択する。
- 2) 入試時の面談及び研究計画書をもとに、専攻教授会において研究指導教員を決定する。
- 3) 原則、入学までに指導教員を決定する。

3. 研究指導の方法 ※1

- 1) 研究計画の立案（1年次）
 - ① 学生は、決定した研究課題に関して先行研究の整理、仮説の設定を行い、研究計画を立案する。
 - ② 指導教員は、学生が研究計画を立案するに当たって、研究方法・文献調査方法・文献読解方法などを指導する。
 - ③ 学生と指導教員は、協議のうえ研究指導計画書を作成し、研究科長へ提出する。
- 2) 研究の遂行（1年次～2年次）
 - ① 学生は、研究計画に従って研究を遂行する。研究の遂行にあたり、研究方法の確立、予備実験、調査などを行う。次いで、決定した研究方法にて研究課題に取り組み、データ収集・解析等を行い、研究結果をまとめる。
 - ② 指導教員は、研究の進行を確認しつつ、実験・調査等の手技の指導やデータ解析の指導等を行い、研究結果をまとめさせる。
 - ③ 指導教員は、研究の進捗状況について確認し、研究の進捗状況に応じた指導を行う。
- 3) 研究経過の中間報告（1年次 10月以降）

学生は、応用生命研究プレゼンテーションの授業において研究経過を報告する。
- 4) 修士論文の作成（2年次）
 - ① 学生は、研究成果をもとに修士論文をまとめる。
 - ② 指導教員は、修士論文の構成や図表の作成、文献の整理・引用等、論文のまとめ方を指導する。
- 5) 修士論文の提出・発表（2年次）

学生は修士論文を指定した期日までに提出し、公開の発表会で論文の内容を発表する。
- 6) 研究指導報告書の提出（2年次）

指導教員は、研究指導報告書を作成し、研究科長に提出する。

※1 （ ）内の年次・月は春入学の場合の目安。秋入学の場合はこの日程に準ずる。

生命環境科学研究科 応用生命科学専攻（博士後期課程）
研究指導教員の決定と研究指導の方法

1. 研究指導教員の役割

- 1) 研究指導教員は、学生の希望する研究課題、指導教員の専門分野、指導環境などを考慮し、学生の同意を得た上で研究課題を決定し、研究指導を行う。
- 2) 研究指導教員は、研究指導に加え、学生の教育・研究に必要な授業科目について、シラバスを参考にして個々の学生の指導を行う。
- 3) 研究指導教員は、学生の希望に基づき学生ごとに1名を決定する。

2. 研究指導教員の決定プロセス

- 1) 募集要項の担当教員表等をもとに、事前に希望する教員への研究室訪問や面談を行い、出願時に指導を希望する教員を選択する。
- 2) 入試時の面談及び研究計画書をもとに、専攻教授会において研究指導教員を決定する。
- 3) 原則、入学までに指導教員を決定する。

3. 研究指導の方法 ※1

- 1) 研究計画の立案（1年次）
 - ① 学生は、決定した研究課題に関して先行研究の整理、仮説の設定を行い、研究計画を立案する。
 - ② 指導教員は、学生が研究計画を立案するに当たって、研究方法・文献検索方法・文献読解方法などを指導する。
 - ③ 学生と指導教員は、協議のうえ研究指導計画書を作成し、研究科長へ提出する。
- 2) 研究の遂行（1年次～3年次）
 - ① 学生は、研究計画に従って研究を遂行する。研究の遂行にあたり、研究方法の確立、予備実験、調査などを行う。次いで、決定した研究方法にて研究課題に取り組み、データ収集・解析等を行い、研究結果をまとめる。
 - ② 指導教員は、研究の進行を確認しつつ、実験・調査等の手技の指導やデータ解析の指導等を行い、研究結果をまとめさせる。
 - ③ 指導教員は、研究の進捗状況について確認し、研究の進捗状況に応じた指導を行う。
- 3) 研究経過の中間報告（2年次10月以降）

学生は、中間報告会において研究経過を報告する。
- 4) 英文学術雑誌論文の作成（1年次後期～3年次）
 - ① 学生は、研究成果をもとに英文学術雑誌論文を作成する。
 - ② 指導教員は、英文学術雑誌論文の構成や英作文、図表の作成、文献の整理・引用等、論文のまとめ方を指導すると共に、投稿、査読・改訂等、論文受理に至るプロセスを教授する。
- 5) 博士論文の作成（3年次）
 - ① 学生は、研究成果をもとに博士論文をまとめる。
 - ② 指導教員は、博士論文の構成や図表の作成、文献の整理・引用等、論文のまとめ方を指導する。
- 6) 博士論文の提出・発表（3年次）

学生は博士論文を指定した期日までに提出し、公開の発表会で論文の内容を発表する。
- 7) 研究指導報告書の提出（3年次）

指導教員は、研究指導報告書を作成し、研究科長に提出する。

※1 （ ）内の年次・月は春入学の場合の目安。秋入学の場合はこの日程に準ずる。

生命環境科学研究科 緑地環境科学専攻（博士前期課程）
研究指導教員の決定と研究指導の方法

1. 研究指導教員の役割

- 1) 研究指導教員は、学生の希望する研究課題、指導教員の専門分野、指導環境などを考慮し、学生の同意を得た上で研究課題を決定し、研究指導を行う。
- 2) 研究指導教員は、研究指導に加え、学生の学修・研究に必要なとなる授業科目の履修について指導を行う。
- 3) 研究指導教員は学生ごとに1名とし、必要な場合は副研究指導教員を設ける。

2. 副研究指導教員の役割

- 1) 副研究指導教員は、研究指導教員と協力して学生の研究指導を補助的に行う。
- 2) 副研究指導教員は、上記に加え、研究指導教員の指導についての学生からの相談に応じ調整を行う。
- 3) 副研究指導教員を設ける場合は、学生ごとに1名または2名とする。

3. 研究指導教員の決定プロセス

- 1) 出願者は募集要項の担当教員表等をもとに、事前に希望する教員の訪問や面談を行い、出願書類に指導を希望する教員を記載する。
- 2) 入学試験時の口頭試問において指導を希望する教員と希望理由を確認する。
- 3) 専攻教授会において合格者の希望に基づき研究指導教員を、併せて必要な場合は副研究指導教員を決定する。
- 4) 原則、入学までに指導教員を決定する。

4. 研究指導の方法 ※1

- 1) 研究計画の立案（1年次4月～7月）
 - ① 学生は、決定した研究課題に関して先行研究を整理し研究計画を立案する。
 - ② 研究指導教員は、学生の研究計画立案に際し、研究方法、文献の検索や読解方法等を指導する。
 - ③ 学生と研究指導教員は、協議のうえ研究指導計画書を作成し、研究科長へ提出する。
- 2) 研究の遂行（1年次7月～2年次1月）
 - ① 学生は、研究計画に従って研究を遂行する。1年次では、主に予備的な実験や調査を行い研究方法の確立を図る。2年次では、確立した研究方法によりデータ収集・解析等を進め、その成果を修士論文としてまとめる。
 - ② 研究指導教員は、研究の進行を随時確認し、実験・調査等の手法やデータ解析の指導等、研究の進捗状況に応じた指導を行う。
- 3) 研究成果の中間発表（2年次9月）
 - ① 学生は、ここまでの成果と今後の予定について、専攻内の発表会で報告する。
 - ② 研究指導教員は、プレゼンテーション方法等について指導する。
- 4) 修士論文の作成（2年次10月～1月）
 - ① 学生は研究成果をもとに修士論文の作成を開始し、指導教員のもとで修士論文をまとめる。
 - ② 指導教員は、修士論文の構成や図表の作成、文献の整理・引用等、論文のまとめ方を指導する。

5) 修士論文の提出・発表（2年次 1～2月）

学生は修士論文を指定する期日までに提出し、公開の発表会で論文の内容を発表する。

6) 研究指導報告書の提出（2年次 2月）

研究指導教員は、研究指導報告書を作成し、研究科長に提出する。

※1 （ ）内の年次・月は春入学の場合の目安。秋入学の場合はこの日程に準ずる。

生命環境科学研究科 緑地環境科学専攻（博士後期課程）
研究指導教員の決定と研究指導の方法

1. 研究指導教員の役割

- 1) 研究指導教員は、学生の希望する研究課題、指導教員の専門分野、指導環境などを考慮し、学生の同意を得た上で研究課題を決定し、研究指導を行う。
- 2) 研究指導教員は、研究指導に加え、学生の学修・研究に必要なとなる授業科目の履修について指導を行う。
- 3) 研究指導教員は学生ごとに1名とし、必要な場合は副研究指導教員を設ける。

2. 副研究指導教員の役割

- 1) 副研究指導教員は、研究指導教員と協力して学生の研究指導を補助的に行う。
- 2) 副研究指導教員は、上記に加え、研究指導教員の指導についての学生からの相談に応じ調整を行う。
- 3) 副研究指導教員を設ける場合は、学生ごとに1名または2名とする。

3. 研究指導教員の決定プロセス

- 1) 出願者は募集要項の担当教員表等をもとに、事前に希望する教員の訪問や面談を行い、出願書類に指導を希望する教員を記載する。
- 2) 入学試験時の口頭試問において指導を希望する教員と希望理由を確認する。
- 3) 専攻教授会において合格者の希望に基づき研究指導教員を、併せて必要な場合は副研究指導教員を決定する。
- 4) 原則、入学までに指導教員を決定する。

4. 研究指導の方法 ※1

- 1) 研究計画の立案（1年次4月～7月）
 - ① 学生は、決定した研究課題に関して先行研究を整理し研究計画を立案する。
 - ② 研究指導教員は、学生の研究計画立案に際し、研究方法、文献の検索や読解方法等を指導する。
 - ③ 学生と研究指導教員は、協議のうえ研究指導計画書を作成し、研究科長へ提出する。
- 2) 研究の遂行（1年次7月～3年次1月）
 - ① 学生は、研究計画に従って研究を遂行する。1年次では、主に予備的な実験や調査を行い研究方法の確立を図る。2、3年次では、確立した研究方法によりデータ収集・解析等を進め、その成果を博士論文としてまとめる。
 - ② 研究指導教員は、研究の進行を随時確認し、実験・調査等の手法やデータ解析の指導等、研究の進捗状況に応じた指導を行う。
- 3) 論文投稿および学会発表（随時）
 - ① 学生は、研究成果について学術誌への論文投稿や学会での発表を行う。
 - ② 研究指導教員は、投稿論文のまとめ方、学会発表の方法等について指導する。
- 4) 博士論文の作成（3年次10月～1月）
 - ① 学生は研究成果をもとに博士論文の作成を開始し、指導教員のもとで博士論文をまとめる。
 - ② 指導教員は、博士論文の構成や図表の作成、文献の整理・引用等、論文のまとめ方を指導する。

5) 博士論文の提出・発表(3年次12～2月)

学生は博士論文を指定する期日までに提出し、公開の発表会で論文の内容を発表する。

6) 研究指導報告書の提出(3年次2月)

研究指導教員は、研究指導報告書を作成し、研究科長に提出する。

※1 () 内の年次・月は春入学の場合の目安。秋入学の場合はこの日程に準ずる。

生命環境科学研究科 獣医学専攻（博士課程）
研究指導教員の決定と研究指導の方法

1. 研究指導教員の役割

- 1) 研究指導教員は、学生の希望する研究課題、指導教員の専門分野、指導環境などを考慮し、学生の同意を得た上で研究課題を決定し、研究指導を行う。
- 2) 研究指導教員は、研究指導とともに、授業科目の履修相談及び学位論文に対する指導を行う。
- 3) 研究指導教員は、学生ごとに1名を定める。

2. 研究指導教員の決定プロセス

- 1) 学生は、事前に希望する教員への研究室訪問や面談等を経た上で、大学院入試の出願時に、指導を希望する教員を申し出る。
- 2) 入試時の面談及び学生が作成した研究計画書をもとに、専攻教授会において研究指導教員を決定する。
- 3) 原則、入学までに指導教員を決定する。

3. 研究指導の方法

- 1) 研究計画の立案（1年次4月～6月、ただし時期は目安とする）
 - ① 学生は、研究課題に関して先行研究の整理、仮説の設定等を行い、研究計画を立案する。
 - ② 研究指導教員は、学生が研究計画を立案するに当たって、適切な指導及び助言を行う。
 - ③ 学生と研究指導教員は、協議のうえ研究指導計画書を作成し、研究科長へ提出する。
- 2) 研究の遂行
 - ① 学生は、研究計画に従って研究を遂行する。1年次には、主に研究方法の確立、予備実験、調査などを行い、研究課題に取り組む。2年次以降には、1年次に引き続き研究課題に取り組み、データの収集・解析等を行い、研究結果をまとめる。
 - ② 指導教員は、研究の進行を確認しつつ、実験・調査等の手技の指導やデータの解析の指導を行い、研究結果をまとめさせる。
- 3) 研究経過の中間報告（3年次以降の適当な時期）

学生は研究経過の中間報告を行う。
- 4) 論文投稿および学会発表（随時）
 - ① 学生は、研究成果について学術誌への論文投稿や学会での発表を行う。
 - ② 研究指導教員は、投稿論文のまとめ方、学会発表の方法等について指導する。
- 5) 博士論文の作成（4年次10月以降）
 - ① 学生は、これまでの研究成果をもとに博士論文の作成を開始し、指導教員のもとで博士論文をまとめる。
 - ② 指導教員は、博士論文の構成や図表の作成、文献の整理・引用等、論文のまとめ方を指導する。
- 6) 博士論文の提出・発表（4年次12月中旬～2月）

学生は博士論文の一次審査に合格した後、指定された期日までに博士論文を提出し、公開の発表会で論文の内容を発表し、質疑応答する。
- 7) 研究指導報告書の提出（4年次2月）

研究指導教員は、研究指導報告書を作成し、研究科長に提出する。

ただし、秋入学の学生に対しても、春入学の学生に準じた日程で研究指導を行うものとする。

8. 学位論文申請手続等

学位論文の申請については学位論文審査実施要領及び以下の記載事項を参考に手続を進めること。（学位論文審査実施要領及び所定の様式については生命環境科学研究科のホームページからダウンロードできる。）

8-1. 修士論文

申請者は研究指導教員の承認を得たのち申請すること。

【申請手続】

(1) 申請書類

- | | |
|-----------------------|--------|
| (i) 学位授与申請書（様式第1号その1） | 1部 |
| (ii) 修士論文題目（様式7号） | 1部 |
| (iii) 学位論文 | 正本及び写し |
| (iv) 学位論文の要旨 | 正本及び写し |

(2) 提出先

申請書類 (i) 及び (ii)・・・教育推進課（生命担当）
申請書類 (iii) 及び (iv)・・・研究指導教員

(3) 提出期限

3月修了	1月31日（その日が土・日曜日にあたるときは前日または前週の金曜日）
9月修了	7月31日（その日が土・日曜日にあたるときは前日または前週の金曜日）
それ以外	教育推進課（生命担当）に問い合わせること

(4) 審査の流れ

3月修了 (1月31日)	9月修了 (7月31日)
-----------------	-----------------

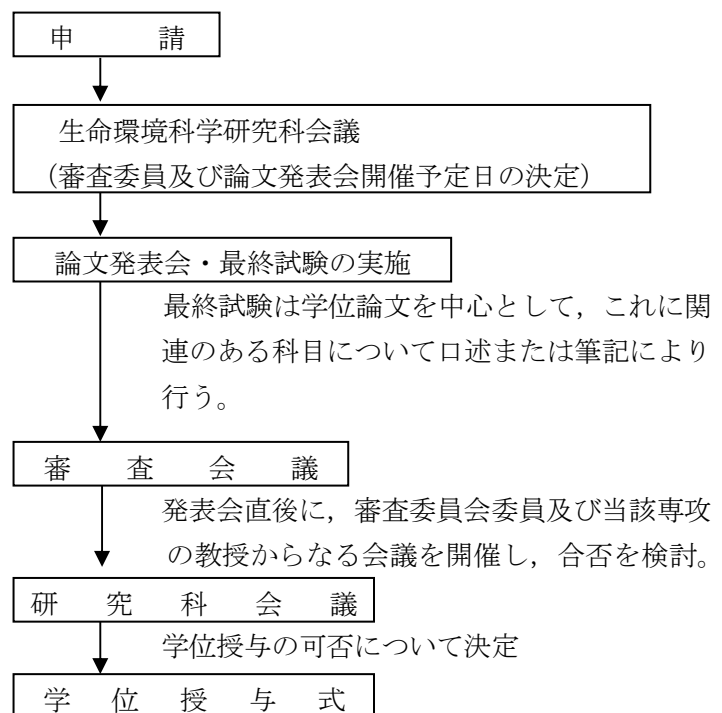
(2月上旬)	(8月下旬)
--------	--------

(2月中旬)	(8月下旬 ～9月上旬)
--------	-----------------

(発表会直後)

(3月上旬)	(9月中旬)
--------	--------

(3月下旬)	(9月下旬)
--------	--------



*3月・9月修了以外の日程は教育推進課（生命担当）に問い合わせること。

8-2. 博士論文

申請者はあらかじめ研究指導教員から申請を行うことについて承認を得たのち申請すること。

【申請手続】

(1) 申請書類

- (i) 学位授与申請書（様式第1号その1） 1部
- (ii) 学位論文冊子体 3部
- (iii) 学位論文の電子ファイル 1部
- (iv) 論文要旨 50部
- (v) 論文目録（様式第2号） 1部
- (vi) 履歴書（様式第3号） 1部
- (vii) 申請者紹介（様式第4号） 1部
- (viii) 承諾書（様式第5号）
- (ix) 大阪府立大学学術情報リポジトリへの博士学位論文登録申請書 1部

その他、必要書類については、生命環境科学研究科「学位論文審査実施要領」を参照すること。

(2) 提出先

教育推進課（生命担当）・りんくうキャンパス事務所（教務担当）

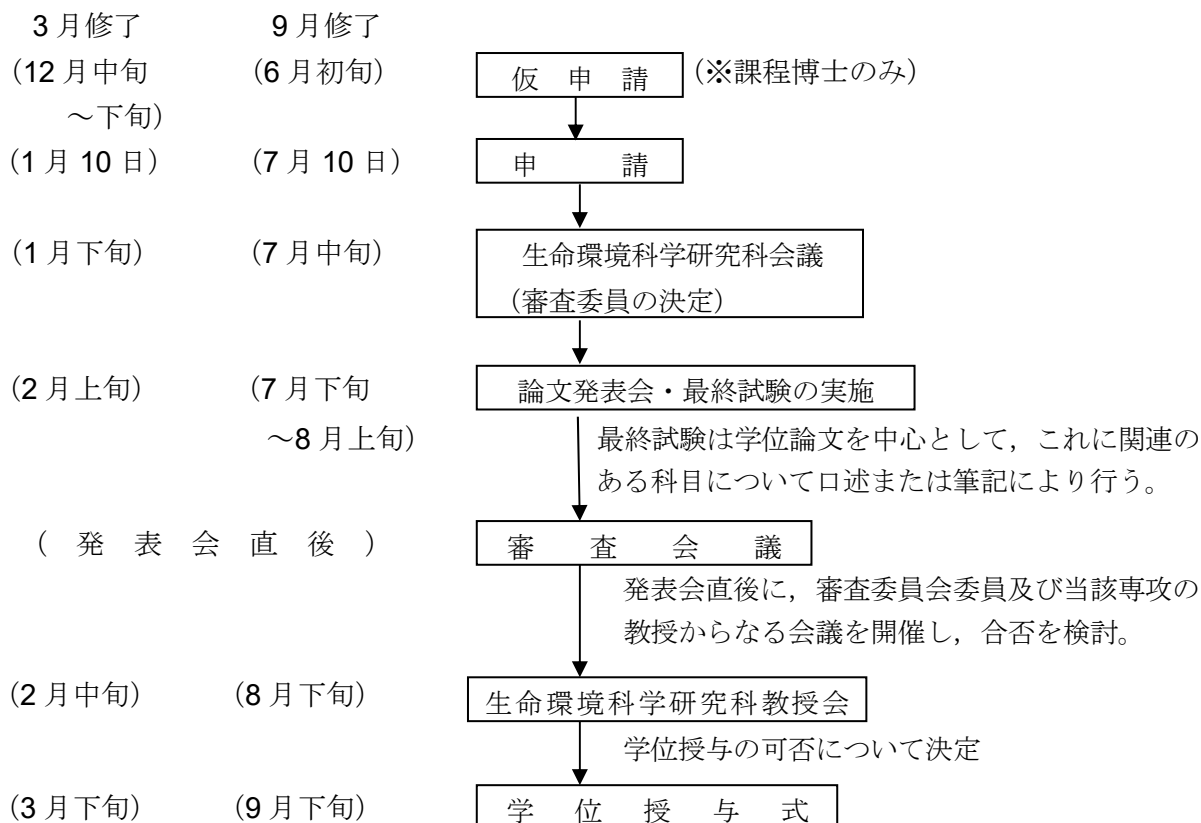
(3) 提出期限

3月修了 1月10日（その日が土・日・祝日にあたる場合は前日または前週の金曜日）

9月修了 7月10日（その日が土・日曜日にあたる場合は前日または前週の金曜日）

それ以外 教育推進課（生命担当）・りんくうキャンパス事務所に問い合わせること

(4) 審査の流れ



* 具体的な日程及び3月・9月修了以外の日程は教育推進課（生命担当）・りんくうキャンパス事務所（教務担当）に問い合わせること。

9. 学位授与申請資格・学位審査基準

生命環境科学研究科 応用生命科学専攻（修士） 学位授与申請資格・学位審査基準

1. 学位授与申請資格

当該専攻の前期課程の所定の単位を修得あるいは修得予定であること。

2. 学位論文審査手続き

1) 審査手続き

学位論文の審査は、主査・副査による第1次審査（事前審査）と第2次審査（修士論文発表会と専攻教授会の構成員および主査・副査の教員による審査）を経て、研究科教授会で審査する。

2) 第1次審査

主査・副査による論文の精査の後、申請者との面接により内容について審査する。必要があるときは、申請者に論文の修正や追加資料を提出させることができる。

3) 第2次審査

主査・副査の出席する公開の修士論文発表会を開き、主査・副査により可否を判断する。

3. 学位論文審査の審査項目と評定基準

1) 審査項目

第1次審査は、以下の項目で審査する。

- (1) 学術的な重要性・妥当性
- (2) 研究計画・研究方法の妥当性
- (3) 研究の独創性
- (4) 修士論文の構成・体裁

第2次審査は、上記の(1)～(4)に加え、以下の項目も審査する。

- (5) プレゼンテーションの能力

2) 評定基準

(1) 第1次審査

主査・副査全員がすべての審査項目が基準に達すると評価した場合を可とする。

(2) 第2次審査

主査・副査の出席する専攻教員会議の構成員が可否を判断する。出席者の3分の2以上の可と評価した場合を合とする。

生命環境科学研究科 応用生命科学専攻（課程博士）
学位授与申請資格・学位審査基準

1. 学位授与申請資格

学位申請する博士論文の主要な内容が、インパクトファクター（IF）を有する英文学術雑誌に、申請者を筆頭著者として1報以上掲載（受理を含む）されていること。IFを有さない英文学術雑誌の場合は、申請者を筆頭著者として2報以上掲載（受理を含む）されていること。

なお、学位申請する博士論文の主要な内容が、IFを有する英文学術雑誌に、申請者を筆頭著者として3報以上掲載（受理を含む）されているかそれに準ずる顕著な業績をあげている場合は、大学院学則第18条第1項のただし書きにある「優れた研究業績を上げた者」として、期間短縮の申請を可能とする。

2. 学位論文審査手続き

1) 審査手続き

学位論文の審査は、審査委員会による第1次審査（個別審査）と第2次審査（論文発表会と専攻教授会議における審査）を経て、研究科教授会の投票により行う。

2) 第1次審査

審査員による論文の精査の後、申請者との面接により内容について審査する。必要があるときは、申請者に論文の修正や追加資料を提出させることができる。第1次審査で申請論文が可と評価された場合、第2次審査を行うものとする。

3) 第2次審査

専攻教授会議の構成員及び審査委員会委員の出席する公開の論文発表会を開き、審査委員会委員及び当該専攻教授からなる会議で可否を判断する。

3. 学位論文審査の審査項目と評定基準

1) 審査項目

第1次審査は、以下の項目で審査する。

- (1) 学術的な重要性・妥当性
- (2) 研究計画・研究方法の妥当性
- (3) 研究の独創性・革新性
- (4) 博士論文の構成・体裁

第2次審査は、上記の(1)～(4)に加え、以下の項目も審査する。

- (5) プレゼンテーションの能力

2) 評定基準

(1) 第1次審査

審査委員全員がすべての審査項目が基準に達すると評価した場合を可とする。

(2) 第2次審査

審査委員会委員及び専攻教授会議の構成員が可否を判断する。出席者の3分の2以上の可と評価した場合を合とする。

生命環境科学研究科 緑地環境科学専攻（修士）
学位授与申請資格・学位審査基準

1. 学位授与申請資格

当該専攻の前期課程の所定の単位を修得あるいは修得予定であること。

2. 学位論文審査手続き

1) 審査手続き

学位論文の審査は、主査・副査による第1次審査（事前審査）と第2次審査（修士論文発表会と専攻教授会の構成員および主査・副査の教員による審査）を経て、研究科教授会で審査する。

2) 第1次審査

中間発表会ならびに主査・副査による論文の精査の後、申請者との面接により内容について審査する。必要があるときは、申請者に論文の修正や追加資料を提出させることができる。

3) 第2次審査

審査委員の出席する公開の修士論文発表会を開き、専攻教授会の構成員および主査・副査による審査で可否を判断する。

3. 学位論文審査の審査項目と評価基準

1) 審査項目

当該専攻の学術研究の発展に寄与する内容であること。当該研究の意義・目的が的確に記述され、研究目的を達成するための方法、論拠とするデータ等の信頼性などが担保されていること。

2) 評価基準

（1）第1次審査

専攻教授会議が上記の審査項目を踏まえて審査の対象とする基準に達したと評価した場合を可とする。

（2）第2次審査

主査、副査及び専攻教授会議からなる会議で可否を判断する。出席者の3分の2以上の可と評価した場合を合とする。

生命環境科学研究科 緑地環境科学（課程博士）
学位授与申請資格・学位審査基準

1. 学位授与申請資格

学位申請する博士論文の主要な論文が、査読を有する学術雑誌等に2本掲載もしくは受理されていること。

2. 学位論文審査手続き

1) 学位論文の審査は、審査委員会による第1次審査（予備審査）と第2次審査（論文発表会）を経て、研究科教授会の投票により行う。

2) 第1次審査

第1次審査は論文の内容について学内の関係者の意見を聴取するために、専攻内で予備審査を行うものとする。

3) 第2次審査

第2次審査は、第1次審査での問題点が修正されたことのチェックと、学内外の関係者に意見を聴取するために公開の論文発表会を開き、審査委員会委員及び該当専攻教授からなる会議で可否を判断する。

3. 学位論文審査の審査項目と評定基準

1) 審査項目

- (1) 学術的重要性・妥当性
- (2) 研究計画・方法の妥当性
- (3) 論拠とするデータ等の信頼性
- (4) 研究成果の独創性および新規性

2) 評定基準

(1) 第1次審査

専攻教授会議が上記の審査項目を踏まえて審査の対象とする基準に達したと評価した場合を可とする。

(2) 第2次審査

主査、副査及び専攻教授会議からなる会議で可否を判断する。出席者の3分の2以上の可と評価した場合を合とする。

生命環境科学研究科 獣医学専攻（課程博士）
学位授与申請資格・学位審査基準

1. 学位授与申請資格

学位申請する博士論文の主要な内容が、インパクトファクター（IF）値を有する学術雑誌に、申請者を筆頭著者として1報以上掲載（受理を含む）されていること。

次のいずれかに該当する場合は、大学院学則第19条のただし書きにある「優れた研究業績を上げた者」として、期間短縮の申請を可能とする。

- 1) 上記の学術雑誌のIF値が3以上である場合。
- 2) 申請者を筆頭著者とする投稿論文が2報以上あり、それらの雑誌のIF値の合計が2以上である場合。

2. 学位論文審査手続き

1) 審査手続き

学位論文の審査は、審査委員会による第1次審査（個別審査）と第2次審査（論文発表会と専攻教授会議における審査）を経て、研究科教授会での投票により行う。

2) 第1次審査

審査委員による論文の精査の後、申請者との面接等により内容について審査する。必要があるときは、申請者に論文の修正や追加資料を提出させることができる。第1次審査で申請論文が可と評価された場合、第2次審査を行うものとする。

3) 第2次審査

専攻教授会議の構成員全員にあらかじめ博士論文を回覧後、論文発表会を開き、専攻教授会議で可否を判断する。

3. 学位論文審査の審査項目と評定基準(獣医学専攻)

1) 審査項目

第1次審査では項目（1）～（4）、第2次審査では項目（1）～（5）で審査する。

- (1) 学術的な重要性・妥当性
- (2) 研究計画・研究方法の妥当性
- (3) 研究の独創性・革新性
- (4) 博士論文の構成・体裁
- (5) プレゼンテーションの能力

2) 評定基準

(1) 第1次審査

審査委員全員がすべての審査項目が基準に達すると評価した場合を可とする。

(2) 第2次審査

専攻教授会議の構成委員が可否を判断する。専攻教授会議で出席者の3分の2以上の可と評価した場合を合とする。

応用生命科学専攻

教育目的

応用生命科学専攻は、地球生命系を構成する生物が持つ多彩な生命現象を解明するバイオサイエンスの発展と生物の多様な機能の応用技術としてのバイオテクノロジーの発展に寄与する人材の育成を目的とする。博士前期課程では、応用生命科学における知識と技術、研究倫理を身に付け、社会の多方面で活躍できる人材を育成する。博士後期課程では、応用生命科学における高度な知識や技術を持ち、総合的な視野や洞察力、研究倫理、独創性、自立的研究能力を身に付けた人材を育成する。

教育目標

- 1 多様な研究バックグラウンドを持つ学内外の教員の講義を通して、動物、植物、微生物といった生命体が持つ多様な機能を分子、細胞、個体レベルで解析、理解するとともに、その性質を生物資源の効率的な利用や生産、有用性の向上あるいは環境保全・修復などへ応用する能力を養う。
- 2 先端化、多様化している応用生命科学の研究領域に関して仮説を立て、その検証を実験的に行うことで技術者として必要な創造性、論理的思考、問題解決能力を養う。
- 3 応用生命科学の研究領域に関連する自然科学、人文・社会科学の知識を広く修得し、多面的に物事を考える能力を養う。
- 4 英語によるコミュニケーション、プレゼンテーションの機会を設けることで国際的に活躍できる能力を養う。
- 5 研究成果の適切な取り扱いや科学技術が社会及び自然環境におよぼす影響について学ぶことで、科学者、技術者としての倫理観を養う。

別表1 応用生命科学専攻 授業科目表

(博士前期課程)

区分	科 目	単位数	配当年次	週授業時間数		担 当 教 員	備 考
				前期	後期		
必修科目	応用生命科学概論	2	1	2		応用生命科学専攻教授	集中講義
	応用生命科学キャリアデザイン	1	1	※	※	教授 秋山 康紀 他	
	応用生命研究プレゼンテーション	1	1		2	応用生命科学専攻全教員	
	応用生命科学グローバルプレゼンテーション	1	1	※	※	(東京医科大学 国際医学情報学分野 助教) ポピエル ヘレナ 明子 (非常勤)	
	応用生命科学ゼミナール A	1	1	2		応用生命科学専攻全教員	
	応用生命科学ゼミナール B	1	1		2	応用生命科学専攻全教員	
	応用生命科学ゼミナール C	1	2	2		応用生命科学専攻全教員	
	応用生命科学ゼミナール D	1	2		2	応用生命科学専攻全教員	
	応用生命科学研究実験 A	3	1	9		応用生命科学専攻全教員	
	応用生命科学研究実験 B	3	1		9	応用生命科学専攻全教員	
	応用生命科学研究実験 C	3	2	9		応用生命科学専攻全教員	
	応用生命科学研究実験 D	3	2		9	応用生命科学専攻全教員	
選択科目			開講年度				
	発酵制御化学特論	1	'22		1	教授 片岡 道彦 准教授 岸田 正夫	
	生物資源循環工学特論	1	'21	1		教授 阪本 龍司 准教授 上田 光宏 講師 中澤 昌美	
	生理活性物質化学特論	1	'22	1		教授 秋山 康紀 准教授 甲斐 建次	
	生体高分子機能学特論	1	'21		1	教授 乾 隆 准教授 石橋 宰	
	食品代謝栄養学特論	1	'21	1		教授 山地 亮一 准教授 原田 直樹	
	食品素材化学特論	1	'21		1	教授 渡邊 義之 准教授 赤川 貢	
	微生物機能開発学特論	1	'22	1		教授 川口 剛司 准教授 炭谷 順一 准教授 谷 修治	
	生物有機化学特論	1	'22		1	教授 谷森 紳治 准教授 園田 素啓	
	生物物理化学特論	1	'21	1		教授 藤枝 伸宇	
	細胞分子生物学特論	1	'22		1	教授 稲田 のりこ	
	機能ゲノム科学特論	1	'21		1	教授 太田 大策 准教授 岡澤 敦司 講師 小川 拓水	
	資源植物学特論	1	'22		1	教授 青木 考 准教授 尾形 善之	
	植物育種繁殖学特論	1	'22		1	教授 横井 修司 講師 手塚 孝弘 講師 古川 一	
	植物機能利用学特論	1	'21	1		准教授 塩崎 修志 准教授 山口 夕 講師 和田 光生	

区分	科 目	単位数	配当年次	週授業時間数		担 当 教 員	備 考
				前期	後期		
選 択 科 目	植 物 栽 培 管 理 学 特 論	1	'22		1	准教授 大江 真道 准教授 塩崎 修志 講 師 古川 一 講 師 和田 光生	集中講義
	Topics of Plant Biotechnology	1	'21		1	教 授 青木 考 教 授 東條 元昭 准教授 山口 夕	
	植 物 栽 培 生 理 学 特 論	1	'21		1	教 授 高野 順平 講 師 松村 篤	
	植 物 発 育 生 理 学 特 論	1	'21		1	教 授 今堀 義洋 准教授 大江 真道	
	植 物 分 子 育 種 学 特 論	1	'21	1		教 授 小泉 望 准教授 岩田 雄二	集中講義
	植 物 生 体 防 御 学 特 論	1	'22	1		教 授 東條 元昭 准教授 望月 知史	
	バイオインフォマティクス特論	2	'21,'22	2		教 授 青木 考 教 授 乾 隆 准教授 石橋 幸 准教授 尾形 善之	
	応 用 生 命 科 学 特 別 講 義 A	1	'21	※	※	(東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授) 堀 正敏 (非常勤)	
	応 用 生 命 科 学 特 別 講 義 B	1	'21	※	※	(岡山大学大学院 環境生命科学研究科 准教授) 泉 実 (非常勤)	集中講義
	応 用 生 命 科 学 特 別 講 義 C	1	'21	※	※	(奈良先端科学技術大学院大学 教授) 加藤 晃 (非常勤)	集中講義
	応 用 生 命 科 学 特 別 講 義 D	1	'21	※	※	(奈良県農業研究開発センター 環境科 指導研究員) 平山 喜彦 (非常勤)	集中講義

※印は開講期を表す。

- 注 1. 必修科目は大学院共通教育科目の「研究公正 A」(1 単位) を含む 22 単位, 選択は 8 単位以上, 合計 30 単位以上を修得すること。
2. 選択科目に大学院共通教育科目の「イノベーション創出型研究者養成」(2 単位) を含めることができる。
3. 指導教員が必要と認めた場合には, 入門基礎科目(学域開講科目)を履修させることがある。ただし, 修了に必要な単位に算入しない。

(博士後期課程)

区分	科 目	単位数	配当年次	週授業時間数		担 当 教 員	備 考
				前期	後期		
必 修 科 目	応用生命科学特別研究実験 AⅠ	2	1	6		} 応用生命科学専攻全教員	
	応用生命科学特別研究実験 AⅡ	2	1		6		
	応用生命科学特別研究実験 BⅠ	2	2	6			
	応用生命科学特別研究実験 BⅡ	2	2		6		
	応用生命科学特別研究実験 CⅠ	2	3	6			
	応用生命科学特別研究実験 CⅡ	2	3		6		

- 注 1. 必修科目は大学院共通教育科目の「研究公正 B」(1 単位) を含む 13 単位を修得すること。
2. 受講申請は指導教員の指導のもとで行うこと。
3. 指導教員が必要と認めた場合には, 博士前期課程開講科目を履修させることがある。

緑地環境科学専攻

教育目的

緑地環境科学専攻は、人間活動も含めた生態系の中で環境や生物群における様々な現象や相互作用のプロセスを解明し、地域の抱える多様な環境問題に対処する技術を培う緑地環境科学の発展に寄与できる人材の育成を目的とする。博士前期課程では、緑地環境科学における知識と技術、研究倫理を身に付け、社会の多方面で活躍できる人材を育成する。博士後期課程では、緑地環境科学における高度な知識や技術を持ち、総合的な視野や深い洞察力、研究倫理、創造性や自立的研究能力を身に付けた人材を育成する。

教育目標

- 1 緑地環境科学の幅広い対象領域を理解し、自然科学、人文・社会科学及び情報技術に関する高度な知識と応用能力、高い倫理観を養成する。
- 2 自然環境・生態系などのモニタリングや保全、創造、維持管理にかかわる原理やシステムに精通し、緑地環境科学の高度な専門的能力、技術開発やその実践に係わる高度な専門技術や問題解決能力を養成する。
- 3 緑地環境科学の研究を通して、創造性、課題発掘能力及び問題解決能力を育成し、高度な科学プレゼンテーション能力を養成する。
- 4 緑地環境科学の高度な専門技術者として論理的な記述力、図面等による表現能力、国際的に通用するコミュニケーション能力を養成する。
- 5 緑地環境科学領域、さらには広領域にわたる研究やプロジェクトを自主的、計画的に推進する高度な能力を養成する。

別表2 緑地環境科学専攻 緑地環境科学分野 授業科目表

(博士前期課程)

	科 目	単 位 数	標準 配当 年次	週授業時間数		担 当 教 員	備 考
				前期	後期		
必修科目	緑地環境科学ゼミナール A	1	1	4		緑地環境科学分野全教員	
	緑地環境科学ゼミナール B	1	1		4		
	緑地環境科学ゼミナール C	1	2	4			
	緑地環境科学ゼミナール D	1	2		4		
	緑地環境科学研究実験 A	2	1	6			
	緑地環境科学研究実験 B	2	1		6		
	緑地環境科学研究実験 C	2	2	6			
	緑地環境科学研究実験 D	2	2		6		
	緑地環境科学特論	2	1	2		教授 加我 宏之 教授 藤原 宣夫 教授 堀野 治彦	
選択科目	緑地環境科学入門特論	2	1	2		教授 渋谷 俊夫 教授 平井 規央 教授 山田 宏之 教授 今西 純一	集中講義
	緑地環境科学応用演習	2	2	4		緑地環境科学分野全教員	
	緑地環境科学応用実験	2	2		6	緑地環境科学分野全教員	
			開講 年度				
	生態気象学特論	2	'21	2		教授 山田 宏之 准教授 青野 靖之 准教授 植山 雅仁	
	生物環境調節学特論	2	'21		2	教授 渋谷 俊夫 講師 遠藤 良輔	
	土環境学特論	2	'21		2	准教授 木全 卓 准教授 谷川 寅彦	
	水環境学特論	2	'21		2	教授 堀野 治彦 准教授 中桐 貴生	
	緑地保全学特論	2	'21	2		講師 櫻井 伸治 教授 藤原 宣夫	
	緑地計画学特論	2	'21		2	准教授 中村 彰宏 教授 加我 宏之	
	地域生態学特論	2	'21	2		准教授 武田 重昭 教授 今西 純一	
	環境動物昆虫学特論	2	'21	2		教授 平井 規央 准教授 上田 昇平	
	生産環境学特論	2	'21		2	准教授 西浦 芳史 准教授 平井 宏昭	
	緑地環境科学特別講義 A	2	'21	2		(横浜国立大学大学院 環境情報研究院 教授)	
						本藤 祐樹 (非常勤)	
	緑地環境科学特別講義 B	2	'22	2		(大阪市立大学大学院工学研究科教授) 嘉名 光市 (非常勤)	

注 1. 必修科目は大学院共通教育科目の「研究公正 A」(1 単位)を含む 15 単位, 選択は 16 単位以上, 合計 31 単位以上を修得すること。

2. 選択科目に大学院共通教育科目の「イノベーション創出型研究者養成」(2 単位)を含めることができる。

(博士後期課程)

区分	科目	単位数	配当年次	週授業時間数		担当教員	備考
				前期	後期		
必修科目	緑地環境科学研究法特別演習	4	1	4	4	緑地環境科学分野全教員	
	緑地環境科学特別演習	4	2	4	4		
	緑地環境科学特別研究	4	2~3 (※1)	6	6		

注 1. 必修科目は大学院共通教育科目の「研究公正 B」(1 単位)を含む 13 単位を修得すること。

2. 受講申請は指導教員の指導のもとで行うこと。

3. 指導教員が必要と認めた場合には、博士前期課程開講科目を履修させることがある。

※1 早期卒業を希望する場合は 2 年次に履修すること。

獣医学専攻

教育目的

獣医学専攻は、獣医学に関する学識・見識・技術を兼ね備えるとともに、応用動物科学領域で専門別に細分化された知識・技術を統合することにより、社会的要請が増加している動物バイオメディカル関連分野、食の安全及び人獣共通感染症を含めた獣医公衆衛生及び動物衛生分野、病態動物の診断・治療・予防などの臨床分野の各分野において、幅広い視野と深い洞察力、及び高い倫理観を持ち、独創的指導能力を発揮できる国際的な専門家を育成する。

教育目標

- 1 動物医療に加え、動物バイオや感染症対策を含めた公衆衛生領域に係わる科学技術を修得し、生命科学に関する問題に柔軟に対応できる研究者としての能力に加え、獣医学を基盤にしたより高度な知識と技術を有する指導者としての能力を培う。
- 2 幅広い視野と高い倫理観を備え、独創的で問題解決能力に優れた研究者・技術者としての能力を培う。
- 3 コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身に付け、国際的に活躍できる能力を培う。

動物構造機能学分野

教育目的

動物構造機能学に関する学識、見識、技術を備え、かつ応用動物科学領域で専門別に細分化された知識・技術を統合し、社会的要請が増加している動物バイオメディカル関連分野において、独創的指導能力を発揮できる国際的な専門家を育成する。

教育目標

- 1 社会的要請が増加している動物バイオメディカル関連分野に貢献できる能力を培う。
- 2 幅広い視野と高い倫理観を備え、独創的で問題解決能力に優れた研究者・技術者としての能力を培う。
- 3 コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身に付け、国際的に活躍できる能力を培う。

獣医環境科学分野

教育目的

獣医環境科学に関する学識、見識、技術を備え、かつ応用動物科学領域で専門別に細分化された知識・技術を統合し、食品・医薬品の安全性確保を含めた公衆衛生分野において、独創的指導能力を発揮できる国際的な専門家を育成する。

教育目標

- 1 生命環境の健全性、食用動物や伴侶動物とヒトにおける健康の維持・向上に貢献できる能力を培う。
- 2 幅広い視野と高い倫理観を備え、独創的で問題解決能力に優れた研究者・技術者としての能力を培う。
- 3 コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身に付け、国際的に活躍できる能力を培う。

獣医臨床科学分野

教育目的

獣医臨床科学に関する学識、見識、技術を備え、かつ応用動物科学領域で専門別に細分化された知識・技術を統合し、病態動物などの診断、治療及び予防において、独創的指導能力を発揮できる国際的な専門家を育成する。

教育目標

- 1 動物の疾病の診断、治療及び予防、さらに環境の変化により引き起こされる動物の疾病や生産障害の発生予防に貢献できる能力を培う。
- 2 幅広い視野と高い倫理観を備え、独創的で問題解決能力に優れた研究者・技術者としての能力を培う。
- 3 コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身に付け、国際的に活躍できる能力を培う。

別表3 獣医学専攻 博士課程 授業科目表

動物構造機能学分野

区分	科 目	単 位 数	標準 配当 年次	週授業時間数		担 当 教 員	備 考
				前期	後期		
必修科目	先端獣医学研究法特別演習	1	1		2	動物構造機能学分野 全教員	
	動物構造機能学特別演習 A	2	2	4			
	動物構造機能学特別演習 B	2	3		4		
	動物構造機能学特別演習 C	2	4	4			
	動物構造機能学特別研究 A	2	1	6			
	動物構造機能学特別研究 B	2	1		6		
	動物構造機能学特別研究 C	2	2	6			
	動物構造機能学特別研究 D	2	2		6		
	動物構造機能学特別研究 E	2	3	6			
	動物構造機能学特別研究 F	2	3		6		
	動物構造機能学特別研究 G	2	4	6			
	動物構造機能学特別研究 H	2	4		6		
選択科目	統合生体学特別講義 A	1	1	1		教授 小川 和重 准教授 中島 崇行 講師 谷田 任司	集中講義 (隔年) 集中講義 (隔年)
	統合生体学特別講義 B	1	1		1	教授 桑村 充 准教授 井澤 武史	
	統合生体学特別講義 C	1	1		1	教授 岡田 利也 講師 近藤 友宏	
	統合バイオ機能学特別講義 A	1	1	1		教授 森山 光章 准教授 高野 桂	
	統合バイオ機能学特別講義 B	1	1	1		教授 東 泰孝	
	統合バイオ機能学特別講義 C	1	1		1	教授 小森 雅之 准教授 片平 じゅん	
	先端機器特別演習	1	1		2	獣医学専攻教員	
	動物倫理特別講義	1	1	1		教授 岡田 利也	
	先端獣医学インターンシップ	1	1	※	※	獣医学専攻教員	
			開講 年度				
	動物構造機能学特別講義	2	'22,'24	2		未定 (非常勤)	
	動物バイオテクノロジー特別講義*	2	'21,'23	2		(神戸大学大学院 農学研究科 資源生命科学専攻 教授) 星 信彦 (非常勤) (武庫川女子大学 食物栄養科学部 教授) 義澤 克彦 (非常勤)	

※印は開講期を表す。

* : 分野間共通

注 1. 必修科目は大学院共通教育科目の「研究公正 B」(1 単位) を含む 24 単位, 選択は 7 単位以上, 合計 31 単位以上を修得すること。

2. 選択科目の 7 単位のうち, 4 単位は獣医学専攻の他分野からの履修も認める。

3. 他分野の選択科目に大学院共通教育科目のうち, 「イノベーション創出型研究者養成ⅡA」(1 単位) ～「イノベーション創出型研究者養成ⅡH」(1 単位) の 8 科目のうち 2 科目 2 単位まで含めることができる。

獣医環境科学分野

区分	科 目	単 位 数	標準 配当 年次	週授業時間数		担 当 教 員	備 考
				前期	後期		
必修科目	先端獣医学研究法特別演習	1	1		2	獣医環境科学分野 全教員	
	獣医環境科学特別演習 A	2	2	4			
	獣医環境科学特別演習 B	2	3		4		
	獣医環境科学特別演習 C	2	4	4			
	獣医環境科学特別研究 A	2	1	6			
	獣医環境科学特別研究 B	2	1		6		
	獣医環境科学特別研究 C	2	2	6			
	獣医環境科学特別研究 D	2	2		6		
	獣医環境科学特別研究 E	2	3	6			
	獣医環境科学特別研究 F	2	3		6		
	獣医環境科学特別研究 G	2	4	6			
	獣医環境科学特別研究 H	2	4		6		
選択科目	生体環境制御学特別講義 A	1	1	1		准教授 西村 和彦	集中講義 (隔年) 集中講義 (隔年)
	生体環境制御学特別講義 B	1	1		1	教授 三宅 眞実	
						准教授 松澤 健志	
						准教授 安木 真世	
	生体環境制御学特別講義 C	1	1		1	教授 松林 誠	
	感染症制御学特別講義 A	1	1	1		教授 堀江 真行	
	感染症制御学特別講義 B	1	1	1		准教授 勢戸 祥介	
						教授 向本 雅郁	
	感染症制御学特別講義 C	1	1		1	講師 幸田 知子	
						教授 山崎 伸二	
	先端機器特別演習	1	1		2	准教授 日根野谷淳	
	動物倫理特別講義	1	1	1		獣医学専攻教員	
目	先端獣医学インターンシップ	1	1	※	※	教授 岡田 利也	
			開講 年度			獣医学専攻教員	
	獣医環境科学特別講義	2	'22,'24	2		未定（非常勤）	
	動物バイオテクノロジー特別講義*	2	'21,'23	2		(神戸大学大学院 農学研究 科 資源生命科学専攻 教授) 星 信彦（非常勤） (武庫川女子大学 食物栄養科学部 教授) 義澤 克彦（非常勤）	

※印は開講期を表す。

*：分野間共通

注 1. 必修科目は大学院共通教育科目の「研究公正 B」（1 単位）を含む 24 単位，選択は 7 単位以上，合計 31 単位以上を修得すること。

2. 選択科目の 7 単位のうち，4 単位は獣医学専攻の他分野からの履修も認める。

3. 他分野の選択科目に大学院共通教育科目のうち，「イノベーション創出型研究者養成ⅡA」（1 単位）～「イノベーション創出型研究者養成ⅡH」（1 単位）の 8 科目のうち 2 科目 2 単位まで含めることができる。

獣医臨床科学分野

区分	科 目	単 位 数	標準 配当 年次	週授業時間数		担 当 教 員	備 考
				前期	後期		
必修科目	先端獣医学研究法特別演習	1	1		2	獣医臨床科学分野 全教員	
	獣医臨床科学特別演習 A	2	2	4			
	獣医臨床科学特別演習 B	2	3		4		
	獣医臨床科学特別演習 C	2	4	4			
	獣医臨床科学特別研究 A	2	1	6			
	獣医臨床科学特別研究 B	2	1		6		
	獣医臨床科学特別研究 C	2	2	6			
	獣医臨床科学特別研究 D	2	2		6		
	獣医臨床科学特別研究 E	2	3	6			
	獣医臨床科学特別研究 F	2	3		6		
	獣医臨床科学特別研究 G	2	4	6			
	獣医臨床科学特別研究 H	2	4		6		
選択科目	先端病態解析学特別講義 A	1	1	1		教 授 杉浦喜久弥 准教授 鳩谷 晋吾	
	先端病態解析学特別講義 B	1	1		1	准教授 野口 俊助 准教授 松山 聡	
	先端病態解析学特別講義 C	1	1		1	教 授 川手 憲俊 講 師 古山 敬祐	
	高度医療学特別講義 A	1	1	1		教 授 笹井 和美 准教授 谷 浩行	
	高度医療学特別講義 B	1	1	1		准教授 古家 優 教 授 秋吉 秀保	
	高度医療学特別講義 C	1	1		1	准教授 西田 英高 教 授 長谷川貴史	
	先端機器特別演習	1	1		2	准教授 藤本 由香 准教授 富張 瑞樹	
	動物倫理特別講義	1	1	1		獣医学専攻教員 教 授 岡田 利也	
	先端獣医学インターンシップ	1	1	※	※	獣医学専攻教員	
	獣医臨床科学特別講義	2	開講 年度	2		(北里大学 獣医学部 獣医学科 教授) 金井 一亨 (非常勤)	集中講義 (隔年)
			'21,'23				
	動物バイオテクノロジー特別講義*	2	'21,'23	2		(神戸大学大学院 農学研究科 資源生命科学専攻 教授) 原山 洋 (非常勤)	集中講義 (隔年)

※印は開講期を表す。

* : 分野間共通

注 1. 必修科目は大学院共通教育科目の「研究公正 B」(1 単位) を含む 24 単位, 選択は 7 単位以上, 合計 31 単位以上を修得すること。

2. 選択科目の 7 単位のうち, 4 単位は獣医学専攻の他分野からの履修も認める。

3. 他分野の選択科目に大学院共通教育科目のうち, 「イノベーション創出型研究者養成ⅡA」(1 単位) ～「イノベーション創出型研究者養成ⅡH」(1 単位) の 8 科目のうち 2 科目 2 単位まで含めることができる。

別表4 生命環境科学研究科の教員一覧

2021年4月1日現在

専攻	分野	領 域	教育研究グループ	教 員				
				教 授	准教授	講 師	助 教	
応用生命科学専攻	応用生命科学分野	生体分子化学領域	生理活性物質化学	秋山 康紀	甲斐 建次			
			生体高分子機能学	乾 隆	石橋 宰		西村 重徳	
			食品素材化学	渡邊 義之	赤川 貢			
			生命分子合成学	谷森 紳治	園田 素啓			
		応用生命機能学領域	発酵制御化学	片岡 道彦	岸田 正夫		三浦 夏子	
			生物資源循環工学	阪本 龍司	上田 光宏	中澤 昌美		
			食品代謝栄養学	山地 亮一	原田 直樹		北風 智也	
			微生物機能開発学	川口 剛司	炭谷 順一 谷 修治			
			生物物理化学	藤枝 伸宇			日比野 威	
		統合生命科学領域	植物分子育種学	小泉 望	岩田 雄二			
			機能ゲノム科学	青木 考	尾形 善之			
			応用分子生物学	稲田 のりこ			深田 尚	
			細胞代謝機能学	太田 大策	岡澤 敦司	小川 拓水		
		植物生産科学領域	植物栽培生理学	高野 順平		松村 篤		
			植物生体防御学	東條 元昭	望月 知史			
			植物育種繁殖学	横井 修司		手塚 孝弘 古川 一		
			資源植物機能学		塩崎 修志	和田 光生		
			フードシステム学		山口 夕		築瀬 雅則	
		教育研究フィールド		教育研究フィールド	今堀 義洋	大江 真道		

専攻	分野	教育研究グループ	教 員			
			教 授	准教授	講 師	助 教
緑地環境科学専攻	緑地環境科学分野	生態気象学	山田 宏之	青野 靖之 植山 雅仁		
		生物環境調節学	渋谷 俊夫		遠藤 良輔	
		土環境学		木全 卓 谷川 寅彦		工藤 庸介
		水環境学	堀野 治彦	中桐 貴生	櫻井 伸治	
		生産環境学		西浦 芳史 平井 宏昭		
		緑地計画学	加我 宏之	武田 重昭		松尾 薫
		緑地保全学	藤原 宣夫	中村 彰宏		上田 萌子
		地域生態学	今西 純一			大塚 芳嵩
		環境動物昆虫学	平井 規央	上田 昇平		

専攻	分野	領 域	教育研究グループ	教 員			
				教 授	准教授	講 師	助 教
獣医学専攻	動物構造機能学分野	統合生体学領域	獣医解剖学	小川 和重	中島 崇行	谷田 任司	
			獣医病理学	桑村 充	井澤 武史		田中 美有
			実験動物学	岡田 利也		近藤 友宏	
		統合バイオ機能学領域	統合生理学	森山 光章	高野 桂		
			応用薬理学	東 泰孝	中嶋 秀満		
			細胞分子生物学	小森 雅之	片平 じゅん		
	獣医環境科学分野	生体環境制御学領域	毒性学		西村 和彦		中川 博史
			獣医公衆衛生学	三宅 眞実	松澤 健志 安木 真世		
			獣医免疫学	松林 誠			岩崎 忠
		感染症制御学領域	獣医微生物学	堀江 真行	勢戸 祥介		
			獣医感染症学	向本 雅郁		幸田 知子	
			獣医国際防疫学	山崎 伸二	日根野谷 淳		畑中 律敏
	獣医臨床科学分野	先端病態解析学領域	細胞病態学	杉浦 喜久弥	鳩谷 晋吾		
			獣医放射線学		野口 俊助 松山 聡		
			獣医繁殖学	川手 憲俊		古山 敬祐	
		高度医療学領域	獣医内科学	笹井 和美	谷 浩行 古家 優		
			獣医外科学	秋吉 秀保	西田 英高		
			特殊診断治療学	長谷川 貴史	富張 瑞樹 藤本 由香		
獣医臨床センター		獣医臨床センター	嶋田 照雅 山岸 則夫	石川 真悟 島村 俊介		酒居 幸生	

【参考】生命環境科学域 附属教育研究施設

* は、兼任を表す

施設名	職 名	教 員			
		教 授	准教授	講 師	助 教
教育研究 フィールド	フィールド長	横井 修司 *			
	副フィールド長	今堀 義洋			
		青木 考 *	岩田 雄二 *	手塚 孝弘 *	築瀬 雅則 *
		小泉 望 *	大江 真道	松村 篤 *	
獣医臨床 センター		高野 順平 *	尾形 善之 *		
		東條 元昭 *	塩崎 修志 *		
			望月 知史 *		
			山口 夕 *		
	センター長	長谷川 貴史*			
		秋吉 秀保 *	石川 真悟	古山 敬祐 *	酒居 幸生
		川手 憲俊 *	島村 俊介		
		笹井 和美 *	谷 浩行 *		
		嶋田 照雅	富張 瑞樹 *		
		杉浦 喜久弥*	西田 英高 *		
		山岸 則夫	野口 俊助 *		
			鳩谷 晋吾 *		
			藤本 由香 *		
			古家 優 *		
			松山 聡 *		